

中学生の「税」についての作文

税務課では、納税意識の高揚を目的に、次代を担う中学生を対象に「税についての作文」を募集しました。この中から最優秀賞である小松島市長賞を受賞された小松島中学校3年の林 愛結さんの作文を紹介します。

『自分に』

『できること』

小松島中学校 3年

林 愛結



税と聞いて、私が思い浮かべるのは消費税です。消費税は物を買うとき、サービスを受けるとき、値段に上乘せされるものです。消費税というものが導入され始めたとき三パーセントだったものが、今は八パーセント。そして十月からは十パーセントになると聞いています。私はよく買い物を買います。だから、消費税は上げてほしくない、消費税

などなくてもいいのにとさえ思っていました。

なぜ、私達は消費税のような税金を納めなければならないのでしょか。納められた税金は、どんなことに使われるのでしょうか。

調べてみると、納められた税金は、国や地方公共団体が、私達国民が、健康で豊かな最低限の生活を送るために提供される、様々な活動の資金になっていくようです。例えば事故や火事の時、消防車や救急車、パトカーを呼ぶことができます。その警察や消防がお金がなくて活動できなければ私達は安心して生活できません。病気になる、病院で多額のお金を支払わなければいけないとしたら、具合が悪くても病院へ行くことができなくなりそうです。消防車や救急車を使って多額のお金を支払わないといけないとしたら、

火事や病気の悪化が心配されるでしょう。信号がなければ、安心して道も歩けません。

このように税金はみんなが使う公共の施設の建築費や、生活が困難な高齢者、収入が不安定な人たちなどを支援するためのお金、地震や災害の影響などで仕事や住む家を失ってしまった人達を助けるためなど、様々な場所で使われているということを知りました。自分が納めた税金が、誰かの役に立っているんだと思うと、少しうれしい気がしてきました。消費税で少し値段が高くなるくらいは仕方ないかなと思えてきます。

調べていくうちに、自分の手元から出て行ったお金が、

何らかの形で自分に戻ってきているのだと感ぜられ、納めなければいけないと強く思いました。消費税がどこまで上がったっていくのか分かりませんが、私たちが豊かに安心して暮らしていくために、税を納めるといことは義務でもあるのでこれからはきちんと税を納めたいと思います。一人一人の納める税金は、様々な活動を支えるためには少ないかもしれませんが、きちんとして暮らして豊かにしていくために役立っているのだと思うと、納税者の一人であることがうれしくなります。今、

私は税金があるおかげで安心した生活ができています。それがいいです。大人になったら、消費税以外の税金も、しっかり納めることで、自分の役割をしっかりと果たしていきたいと思っています。



受賞・入選された方々

今年度の「税についての作文」優秀作品の表彰を受けた方は次のとおりです。(敬称略)

【小松島市長賞】

小松島中学校3年 林 愛結

【審査員特別賞】

小松島中学校3年 坂田 真菜
小松島南中学校2年 川下 小雪

【入選】

小松島中学校3年 梶原 沙彩
小松島中学校3年 川口 弥子
小松島中学校3年 丸岡 蒼雅
小松島南中学校2年 古川 慶
小松島南中学校2年 柳澤 寿希

【佳作】

小松島中学校3年 岩瀬 海凧
小松島中学校3年 大栗 夕芽
小松島中学校3年 豊野 凜子
小松島中学校3年 西脇 玲
小松島中学校3年 吉田 凜花
小松島南中学校2年 川村 ほの果
小松島南中学校2年 山城 樹里
小松島南中学校2年 大和 柚那